

■ハング競技委員会議事録

◆日時

2017年11月11日(土)17:00-22:00

◆場所

足尾ショップ

◆参加者

板垣(委員長)、鈴木、牟田園、野尻、大沢(担当理事)

※ビデオ通話:田中、増田(担当理事)、服部(オブザーバ)

◆議事録

1.前回の持ち帰り事項

板垣

- ・競技委員会として日本選手権開催スケジュールを作成して事前に主催者に打診する
2018@西富士は確定
2019@池田、2020@足尾で調整中
- ・カテゴリー2申請料を競技委員会の予算から捻出できないか理事会に起案する
→JHFに確認したが予算の確保は難しい
- ・大会結果報告書のフォーマットを更新する
→完了

牟田園

- ・リスタートのルール変更について規則に明記する
→完了
- ・フライトコンテストのルール規定
→完了

鈴木

- ・過去に最速ゴールタイムが1.0hを切った競技の結果について、パラメータを変更して考察した結果を次回の競技委員会で討議する
→未対応、議題を取り下げる
- ・公式立会人の検定会を開催してもらえるように制度委員会に依頼する
(制度委員会の対応が遅れそうな場合は、国内メダルの新設を検討する)
→制度委員会に依頼をしたが進捗は芳しくない
競技委員会として十分なリソースを割けないので議題を取り下げる
- ・Twitterの運用方法を検討し、アカウントを作成する
→アカウント作成は完了
誰が、どうやって、どのタイミングで発信するか運用方法を決める
 - What
大会の告知(エントリー開始時、締切3日前)、Noタスク、リザルト更新(*)、ランキング更新(*)、規則変更(*)、議事録掲載(*)
 - Who
田中(不在時は代理を指名する)
※は牟田園
 - How
TwitterメインでFacebook連携
 - When
情報の更新タイミング
 - Exception
文字数制限があるので、大会レポートはFacebook経由で
- 検討項目
 - ・競技委員会内でルールをどうやって共有するか
→議事録に掲載する
 - ・TwitterとFacebookの連携
→確認する(鈴木)

野尻

- ・外国選手の初日セットアップルールを作る
→完了

田中(元)

- ・「GPSについて」の見直し
→牟田園に引き継ぐ

共通

- ・海外獲得ポイントの条件緩和「シード2人、参加人数30人」
→2018年ルール改定時に適用する

2.議題・報告

●ルールの改定

◆FSバージョン

FS 2015 R2 → FS 2016 R1.3

・フライングのペナルティの変更

“3秒ごとに1点”から“2秒ごとに1点”に変更される

◆GAPバージョン

GAP2014 → GAP2016

◆GAPのノミナルタイム

カテゴリー2の要件を満たすために1.5hに変更する

・ヒート制に計上するポイントはタスク得点をDQで割ったものとする。ただし、DQ0.9以下のタスクは一律0.9で割るものとする

・同様の理由から世界選手権選抜ランキングのポイント計算式の大会有効率に使用するデイクオリティを

デイクオリティ/0.9(ただし、最大値を1とする) とする

◆ベストポジションの表記について

ゴールまでの経路が最小になるポイントをベストポジションとし、「ベストポジションからゴールまでの最短経路の距離」を「タスク距離」から引いたものが飛行距離となる

→IV-19【距離の測定】を修正する

◆距離判定のToleranceについて

FSとGPSで距離の算出方法が異なる

FS(FAI Sphere)、GPS(WGS84)

そのためFSで距離計算するとき0.5%の誤差を許容している

→0.5%が適用されていることを競技規定に追加する

◆フライトコンテスト

クラス1とクラス5は表彰が分かれることを明文化する

国内のフライトに限ることを明文化する

◆海外獲得ポイントの条件緩和

「シード2人、参加人数30人」に変更する

◆世界選手権選抜の基準について見直す

→前々年度末の時点で選抜ランキングと選抜ルールを告知する(野尻)

→前々年度末の時点で世界選手権に出場する可能性の高い選手の中から選手会長を競技委員会が指名する

・2023年度世界選手権の選抜から選抜基準を国内ランキングに一本化する方向で検討を開始する

■検討項目

→海外ポイントの計上

→ワイルドカードの扱い

→計上対象年度(単年or複年)

■変更理由

→選抜ルールをわかりやすくする

→過去の世界選の経験から、各タスクで高得点をとれる選手を集めることが日本チームの国別順位を上げることにつながる

◆公認大会規則

大会申請の必要書類を現状に即した形で修正する

◆世界戦選抜のシード係数

半数以上の競技に参加していることを条件に追加する

◆事故対応連絡網

申請時にどの大会種別まで提出を求めるか

→全ての大会で必須とする

名簿と同じように大会スタッフが携帯するように、運営規定に追記する

◆板敷の振り返りをルールに反映させる

・選手情報(緊急連絡先含む)が印刷されたものを大会本部に用意すること(大会運営)

・緊急事態のタスクストップ

→規則に追加済み

・血液型を登録情報に追加

→完了

・競技委員会で大会本部用の携帯電話を用意する

→端末: 牟田園が端末を用意する

→SIM: 牟田園が用意する

・緊急連絡先カードを作って板敷の大会でトライアルしてみる(野尻)

→選手の情報が記載されたカードを名札形式にして選手に配布する

→選手は首にかけてハーネスにしまうか、スイングラインにぶら下げさせる

→大会名、ゼッケン、名前、大会本部の連絡先

◆スポーティングライセンスの必須化

2018年度からカテゴリー2の大会に出場するにはスポーティングライセンスを必須とする

→開催規定に追加する

●運営について

◆大会運営マニュアルの作成(増田理事からの要望)

大会準備リストを仕上げることを目標としたい

→方針については増田理事とすり合わせ済み、冬の間は大沢さんと頑張る(牟田園)

◆HPの更新

トップ画像を差し替える(田中)

820*115を5枚

◆GPSのアップロード

ウェイポイントのゼッケン入力は必須外にして、できるだけ選手に事前アップロードしてもらう

その代わりにエアスペースのアップロードに対応する

◆2018年度大会予定(仮)

ー紀ノ川(2/9-2/12)

ー板敷(3/21-25)

ー池田(8月~9月)

ー西富士(9/21-9/24、11/22-11/25)@日本選手権

ーEJC(TBA)

ークラスV(4月)※クラスV単独開催の可能性高い

◆クラスVの代表選考

ローカルレギュレーションを確認して選手に打診する(板垣)

◆タスクストップのルール見直し

FSで得点が出力されないことが問題

FSの開発者にデータを送って確認してもらう(牟田園)

年内までに改善の見込みが立たない場合、タスクストップしたとき競技はキャンセルするように規則を変更する

◆Livetrack24の大会モード使用料金

2016年までは1選手あたり2.5Euro支払っていたが2017年から無料になった

◆ライブトラックの活性化

選手のスマホで運用するには限界があり、定着していない現状

flymasterのトラッカーを安く入手できないか来年2月のCivil総会でかけあってみたい

◆役割分担

～継続～

板垣:委員長

牟田園:規則管理、HP管理

田中(元):議決管理

鈴木:会計

～入替検討中～

▲服部:

×野尻:

※最終的な意思表示は年内まで

3.持ち帰り事項

板垣

- ・オンラインコンテストで表彰する人数(予算)についてJHFに確認する
- ・カテゴリー2申請料を競技委員会の予算から捻出できないか委員長会議で起案する
- ・緊急時対応連絡網にJHF会長の連絡先を記入してよいか確認する
- ・競技委員会専用携帯電話の予算を申請する
- ・クラスVの代表選考(ローカルレギュレーションを確認して選手に打診する)

牟田園

- ・規則全般の見直し
- ・「GPSについて」の見直し
- ・競技委員会専用携帯電話を用意する
- ・大会運営マニュアルの作成(大会準備リストを仕上げる)
- ・タスクストップ時にFSで集計ができない問題を開発者に問い合わせる

鈴木

- ・TwitterとFacebookの連携確認

野尻

- ・2019世界選手権の選抜ランキングと選抜ルールのとめを年度末までに告知する
- ・緊急連絡先カードを作って板敷の大会でトライアルしてみる

田中(元)

- ・HPのトップ画像を差し替える

共通

- ・2023年度世界選手権の選抜から選抜基準を国内ランキングに一本化する方向で検討を開始する

■検討項目

- ー海外ポイントの計上
- ーワイルドカードの扱い
- ー計上対象年度(単年or複年)